

名古屋学院大学同窓会会報

NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION NEWS

第3号('92.10)

名古屋学院大学同窓会事務局発行
愛知県瀬戸市上品野町1350
TEL.0561-42-0350(内線201)

同窓会ネットワーク着々と進行!

アメリカ支部より

年を重ねて参りますと、昔のことが妙に思い出され、同級生のことや気がなったり、昔の出来事をあれこれとなつかしく思い出したりします。

そんな折、同窓会役員
の飯田さん
(68年卒)と
生駒さん
(70年卒)の
アンカレッ
ジへの来訪
で、母校発
展の様子を
伺いました。



同窓会会報、大学案内、Cosmoramaを
して「Interview」など拝見して、あまりの愛
わり様に驚きと喜びで一杯になりました。
母校が益々進展していくことほど卒業生に
とって励みになることはありません。
長く暗い時代を乗り越えて、今日の発展
へ導かれた関係者の皆さまの御努力に心よ
り声援を送りたいと思います。

さて今回私たち遠い陸の孤島「アラスカ」
にまで、NGUの同窓会支部を設けて頂き、
有難うございます。ここでの同窓生は全部
でわずか五名ですが、皆さんそれぞれに活
躍していらっしゃいます。忙しくてこれま
でなかなか全員で集まることのできないま

アメリカ・関西・三重支部誕生

までいきましたが、今回、飯田さん、生駒さ
んの掛け声で、同窓生全員家族ともども集
いましたことは、名学大同窓会に対し本当
に感謝の気持ちで一杯です。

今後、今までの長い空白を埋めるが如く
に、名古屋学院大学同窓会の益々の御活躍
を期待しております。

アメリカ支部代表
二之湯よう子(アンカレッジ市在住)
(旧姓 原田) (76年卒)

関西支部発足

関西支部設立総会は、九月十一日(十月十五
日)大阪市上本町六丁目、中華料理店「仙山
閣」にて開催されました。当日は本部から
中野副会長が参加し、支部役員および今後
の活動等を決め、懇談のひとつきをすこし
しました。食事をしながらの話題は、発展を
続ける母校のはなし・支部から恩師をお招
きしたい・卒業後一度も尋ねたことがない
母校を是非訪問したい・同窓生の子弟の大
学入試の問題等々が話されました。参加者
は初めて合った同窓生と、年代を越えて話
題がはずみ、「近くに來たら是非よってく
れよ」と声をかけ合い、二次会に場所を移
し楽しい時間を過ごし、次回の再会を誓い
合いました。

支部長 中川博嗣 (68年卒)
副支部長 沢田久雄 (68年卒)
会 計 富田和良 (89年卒)

名古屋学院大学同窓会関西支部事務局
大阪市生野区東生野一丁目三六
中川事務所内 ☎六〇七二二一三五七四

三重支部設立総会のご案内

日時 十一月二十九日(日曜日)
午後五時より

場所 津都ホテル
会 費 老万円
申込み・お問い合わせ
事務局及び発起人代表

稲垣 民三(68年卒)
〇五九三二七二八三二

八月四日、かねて同窓生よりご要望があ
りました三重支部設立について準備会、発
起人四名と事務局長が出席して四日市市で
開かれ、右の通り決定しました。
発起人の一人、稲垣氏から「第二次ペー
プルのピークも去り、学生数が減少する
中で我が名学大の今後の発展を願って、同
窓生が側面より母校をフォローしたい」と
手紙を頂きました。

三重県在任者は現在一、〇三八名ですが、
三重県在任者及び出身者のご出席を是非お
願いします。
尚、当日は同窓会会長を始め、大学関係
者の出席も予定されています。

会報第二号で同窓会ネットワーク設立のご案内
内を出したところ、早速右記支部発足の報告が
届きました。

他地域に在住の同窓生の方々も、ぜひ積極的
に支部作りにご参加下さい。



新会長あいさつ 加藤 末男

一九九二年飛躍の秋、同窓生の皆様方にはご健勝かつ多方面でご活躍のことと拝察致します。

このたび、「名古屋学院大学同窓会会報」第三号を発刊するまでになりましたが、日頃同窓会運営に格別のご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、前会長の病氣辞任の為、後任に私が選出され、会の運営を担当することになりました。微力ではありますが、役員並びに会員の皆様の積極的な協力と、暖かいご支援を頂きこの大任を勤めてまいりたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

また、懸案となっておりました、大学同窓会の分離独立が一九九一年十一月十六日付にて承認されました。

今後は敬愛同窓会ともども友好関係を保持しつつ、それぞれの同窓会活動を行っていくことになりました。

大学同窓会の独立に対して、ご尽力いただいた役員の方々、大学関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

〈同窓会の運営について〉

大学同窓会も、発足以来二十五年が経過して、来年には外国語学部の新卒生を送り出すこととなり、会員数は二万人を越える大きな所帯となります。拡大する組織と運営の充実を図るために、組織、事業、会報の運営について見直しを行い、将来に備えていく必要があります。勿論、同窓会の歴史と伝統を考慮の上、担当役員をヘッドとした各専門委員会を中心に、長期的展開を計りたいと考えております。皆様の一層のご支援を心からお願ひ申し上げます。

第三回ホームカミングデー 盛況に終了



第三回ホームカミングデーが、一九九一年十一月三日(日)に行われました。今年度は、大学同窓会が敬愛同窓会より分離独立した最初の年でもあり、各地から集まったOBと家族、教職員ら約三〇〇名の熱気で、会場となった思星館(第二食堂)は、大学祭以上の盛り上がりを見せました。

会長、理事長、学長、法人事務局長らの挨拶につづいて、地元のロックバンドとジャズバンドの演奏が、これまでとはひと味違ったホームカミングデーを演出してくれました。

特に入試課、就職課には、入試相談・就職情報コーナーを設けていただき、OBと大学との係わりを一層深めました。

第四回ホームカミングデーご案内 (大学祭も開催)

とき 十一月三日(祝日)十二時～十四時

ところ 名学大思星館(第二食堂)

プログラム

コンサート (名古屋フィルハーモニー・オーケストラ メンバー)

抽選会

名古屋学院大学同窓会総会

とき 十一月三日(祝日)十一時～十二時まで

ところ 名学大 第三会議室(希望館)

豪華な景品のあたる抽選会に一喜一憂し、料理に舌つづみを打ち、先生方のスピーチに耳をかたむけ、同窓生たちと懇談して、なごやかな雰囲気の中、秋晴れの一日を過ごしました。



益々発展する母校—商学部開設—

学長 西村 晃夫



本学の創立は、一九六四年（昭和39年）でした。それから満二十八年が経過し、解決したり改善せねばならぬことは多くありますが、大学の運営は順調です。これも関係者の皆さん、とりわけ同窓会の順調な発展とご協力のお蔭であると感謝しています。この一年間は、本学にとって大変意味のある時期でした。本来の使命をよりよく発揮するために、大学同窓会が新しく独立組織として敬愛同窓会から分離しました。もとよりお互いの立場や実現すべき理想のための平和裡での話合いの結果です。さらに本学の悲願でありました複学部体制が、一九八九年に外国語学部の増設という形で果され、今年その完成年度を迎えました。六月に行なわれた文部省による実地調査の結果も、設置基準に基づいて大学の使命を十分果たすような運営がなされていると評価され、「努力に対して敬意を表します」という讃辞をえることができました。山下学部長はじめ多くの関係者の方に心か

らお礼を申しあげます。また十八年米の悲願でありました学部改組による商学部の創設も、小嶋学部長はじめ関係者各位の努力によって実現し、意欲的なカリキュラムと学生の身になったコース制の実施によって、着実に成果をあげています。

今後私たちの大学は、いたずらに量的拡大に走るのではなく、中部を代表するすぐれた大学としての地歩を固めるために質的充実にとりくんでいくつもりです。具体的には大学にとって長子ともいえるべき経済学部の充実と学科増、情報教育の発展のためのハード面とソフト面での拡充、時代の要請に応えるような形での大学院の設置などを考えています。大学の持つ社会的な意味と役割は毎年大きくなっていきますし、社会の期待に応えつつおぼなりません。一九九一年七月に施行された大学設置基準の大綱化や大学の自己点検・自己評価の線にそって、本学でもいくつかの委員会をそれぞれのセクションごとに作って、成果をあげるべく努力しています。

こうした時期に間もなく本学は創立三十周年を迎えようとしています。数多くの計画や夢が実現されるべく、日下準備が進められています。大学にとって最大の財産の一つである同窓会にも、私たちは大きな期待を寄せています。これは単なる依存ではなく、相互琢磨を通じての名古屋学院大学の発展と地域社会への貢献のためであります。

留学や外国人留学生との交流で国際的な視野を広げる

■国際交流センター

海外二十大学と交換協定を結び、学生派遣や外国人留学生の受け入れを中心的に行っているのが「国際交流センター」です。海外への留学制度（長期留学・短期留学）ではアメリカへの短期留学（百数十名）と長期留学と中国への同様の留学制度を行っています。また、海外から本学への留学生も受け入れ、現在「留学生別科」では約三十名が日本語と日本文化の研究を行っています。今後とも、同窓生の方々の「国際交流」へのご支援をお願いします。



ニューメディアを駆使した最新の語学教育施設

■外国語教育研究センター

最新設備のニューメディアを駆使し、外国語教育、研究を展開しているのが「外国語教育研究センター」です。このセンターは、CALLラボ教育（Computer-Assisted Language Learning）の略で、CAI教育により文字英語より音声英語を、「話す」よりも「聞く」ことに重点を置いて、学生の外国語運用能力の向上をはかっています。

当センターでは、英語の集中講座や公開講演会を定期的に開催するほか、実用英語検定試験（英検）も行っています。



第二十回チャペルコンサートご案内

チャペルにパイプオルガンが設置され、毎年春と秋の二回、オルガン演奏を中心としたチャペルコンサートを一般公開で開催してまいりました。早いもので今回で二十回目となりま

す。今回は、ドイツよりハイアエ・シェック氏を迎えて、来る十月十四日(水)午後二時より、本学チャペルにおいてオルガン演奏会を開催します。シェック氏は若くして音楽の才能を認められ、十三才でトロジנגガ音楽学校の英才クラスに入學、さらにシュトゥットガルト音楽大学、フライブルグ音楽大学で学び、演奏家資格を取得されました。

以後ドイツのみならず、ヨーロッパ、アメリカ、日本で演奏活動を行い、名声を博している方です。現在はカールスルーエ音楽大学の講師、ベルギー教会のオルガニストです。

ひろく一般の方々に無料公開しておりますのでぜひご参加下さい。お問い合わせは、キリスト教センターへどうぞ。



公開シンポジウム開催される

「ポスト冷戦時代の日韓経済協力」

名古屋学院大学産業科学研究所・アジア経済研究会主催、韓国より二名の研究者を招き、九月十七日(木)名古屋商工会議所ホールで参加者二五〇名で開催。西村昂夫学長が可会兼コメンテーターとして進行し、講演者は、以下のとおりでした。福田茂夫教授の「冷戦後のアメリカのアジア政策」、安豊模研究委員(韓国産業研究院)の「日韓が直面した経済問題」、季鍾允教授(韓国外国语大学)の「日韓の水平的分業」、片野彦二教授が「今後の日韓経済発展の方向」。通訳は本学の姜喜永講師が担当した。

今回のシンポジウムでは、今後の日韓経済協力の在り方に関わる問題点を中心に討論が行われた。八十年代の終わり頃まで、韓国経済は驚異的な経済成長を達成していた。これは韓国の自助努力によるが、資本・技術においては主として日本に依存し、製品の市場においては主として米国に依存することにより、輸出志向型の工業化を推進し、その結果この経済成長は実現された。八十年代中頃以降の韓国通貨の対米ドル価値の上昇、九十年代になってからの賃金水準の急上昇は、韓国製品の国際競争力を削減し、輸出は伸び悩み、貿易収支は逆転し、韓国の経済成長には障りがでてきている。このような状況からの脱却が現在の韓国経済における最大の問題点である。日韓経済協力関係におけるこのような問題点を軸として討論が展開された。



一九九二年度父母懇談会開催される

今年度の父母懇談会が、五月九日から九月十五日にわたり、十二会場で開催されました。

まず五月份は四年次生を対象に就職説明会が岡山、浜松、名古屋、金沢の四会場で開催され、今年の就職動向について父母の関心の深さが例年以上に目立っていました。

八・九月份は一・三年次生を対象として、浜松、岡山、福岡、金沢および名古屋の五会場で延べ八日間にあたって開催されました。

内容は西村学長をはじめとする各先生方の身近かな小講演にはじまり、それぞれ個別に懇談を行い、父母と大学の相互理解を一層深めることができました。

出席人数は就職説明会が二八二名、懇談会が八六四名と合わせて千名以上の父母の方々にご出席をいただき盛況裡に終了しました。

開催日	開催地	出席者数(人)
5・9	岡山	15
5・10	浜松	45
5・17	名古屋	198
5・31	金沢	15
8・22	浜松	86
8・23	福岡	43
8・29	岡山	28
8・30	金沢	76
9・5	名古屋	116
9・6	名古屋	189
9・13	名古屋	162
9・15	名古屋	164
台	計	1,137



名古屋学院大学 秋季公開講座

テーマ 「エネルギー資源・環境問題」

期間 10/6・11/3(全5回)

毎週火曜午後6時30分/8時30分

会場 名古屋学院大学 第3会議室

講師 井野彦二教授

10/6日 人口・エネルギー食糧

11/3日 これからの経済とエネルギー

環境問題

20日 海外域・放射線と環境

27日 資源・エネルギー問題の日本型構造と地球資源

11/3日 「共生化する世界と共生の環境」

講師 井野彦二教授、木村英伸助教授、深見 勲教授、十名直吉助教授

問合せ先 産業科学研究所(222) 4111

キャンパスライフ

益々充実する母校

大学は本年四月に商学部商学科が新設され、外国語学部と合せて、現在三学部四学科になりました。また、外国人留学生三十名が日本語並びに日本文化を二年間学習する為に設けられた「留学生別科」を含め、着々と総合大学へと前進を遂げています。今後の計画として、大学院、新学科なども検討されています。

大学創立三十周年を間近に控え、益々充実する我母校に同窓生諸氏のご援助をお願いします。



活躍する後輩

学生のクラブ・サークル活動は、活発で地道に頑張っています。

本年前期の活動結果 (一部紹介)

陸上競技

東海学生陸上 砲丸投げ 3位

軟式テニス

東海学生 一部 4位

準硬式野球

春季リーグ 二部優勝一部昇格

水泳

中部学生 25M個人メドレー 2位

水球

一部優勝

ゴルフ

中部学生春季 一部 3位

剣道

全日本学生地区別対抗 ベスト8

馬術

全日本学生女子選手権 出場

ウェイトトレーニング

全日本学生パワーリフティング 六七・五kg級 6位

日本拳法

全日本大学選手権 出場

ボウリング

日本学生個人選抜 出場

自動車

全日本学生決勝大会 出場

硬式野球

春季リーグ 二部 2位

今後の活躍を期待し、後輩の育成援助を是非ともお願いします。



厳しさを益した今年の就職状況

いよいよ、外国語学部の学生が卒業を迎える年となり、今、学生達は必死で就職活動に専念しています。今年の就職状況は、バブル崩壊以後、大手企業を中心に採用数を手控える企業が増え、苦戦を強いられるようです。それでも就職課の報告データによれば、全体的な数字として、男子が八割・女子が六割程度決まっているとのことでした。



また、今年の傾向として、公務員講座に特に力を入れ、昇職員・国税専門官をはじめ、国家及び地方公務員にも順調に合格しています。

前回の会報で同窓会ネットワーク作りの記事を掲載しましたが、学生の就職についても、同窓会ネットワークを利用し、優秀な後輩の採用を是非ともお願いします。

詳細については、同窓会事務局又は就職課にご連絡下さい。

O B 短信



パソコンに魅せられて十二年
——著書を出版——

戸塚 正 康

私とコンピュータとの出会いは、いまから十二年ほど前、NGUの学生としてアラスカ州立大学フェアバンクス校に留学していた時のことでした。私が翌日提出のレポートをタイプで打っている

と、隣の部屋から妙な音が聞こえてくるのです。何やらタイプらしきものを、学生が必死に叩いているのを見た。これが私がコンピュータを見た最初でした。初めての米国では多くのことに驚かされましたが、大学の寮の中にまでコンピュータ・ネットワークが引かれていたのを見て、日本の違いを痛感したものです。

それから十二年、コンピュータ業界の編集長を経て、いまでは同業界に携わる編集会社を興し、コンピュータ・ジャーナリストとして業界にどっぷり足を染めて仕事を毎日です。米国の大学から選ばれること十年。ここ二、三年、国内の多くの大学でコンピュータ・システムを導入する機運が高まっています。慶応義塾大学や早稲田大学など著名な大学は、ここ四、五年の間に大量のコンピュータを導入し、専門情報処理教育だけ

でなく、一般学生のコンピュータ・リテラシー向上に躍起になって取り組んでいます。NGUも例外ではなく、早くから富士通のコンピュータを導入し、業務処理やコンピュータ教育に活用していると聞いています。

情報が企業経営の第四の資源と言われる今日、いかに情報を駆使し戦略的な経営に結び付けるかが経営の最重要課題となってきました。NGUでも、コンピュータを自由自在に扱えることが、教授陣だけでなく学生諸氏にとっても必要不可欠な条件となっていることでしょう。また、これから社会に関わる学部卒業生にとって、コンピュータに対するリテラシーを少しでも身につけることが重要な要素になることは間違いありません。

この十年、企業や社会の中に、急速に普及したコンピュータは、経済、社会の生産財として大きく貢献しました。これからは、個人の知的生産財、文化の発酵器としても、大きく貢献していくことでしょう。NGUの学生諸氏はもちろんのこと、いまだパソコンに手を触れたことすらない方には、いまからでも遅くありません。ぜひ一度パソコンを活用してみたいかがでしょうか。

私は、編集という職業柄、日常業務の中でパソコンを触らない日はないほど活用していますが、コンピュータに関わる方の多少の一助となればと思ひ、昨年末に著書「日本IBMのパソコン新戦略」

（日本工業新聞社刊）を出版しました。もし機会があれば、一読していただければと思います。

（一九八二年卒）CRN代表取締役

大学院の設立を

服部 龍彦



内村鑑三は、「ぼくは聖書で食っているが、聖書を食ったことはない」といったという。彼にとっては、「聖書の頒布や伝導を名目に金をもらっている」という意味で、外国のミッションから援助をうけている宗教団体は、「聖書を食っている者」と見たのである。

これからの大学の状況は、内村のいう「聖書で食う」以上の「聖書を食べさせる」、「大学を食わせる」という覚悟を持つ人材を必要とする時代だと思ひます。最近、名古屋学院大学の職員のみなさんの顔付が変わったといいますが、動作にめりはりがついた様に見えます。このことは、一人一人が私立大学とは経営するものであるという認識が根付いてきたことの現れです。

もともと資質にめぐまれたみなさんです。その気さえあれば、大学の発展は容易いはずで

我々名古屋学院大学出身の者は、例えば新聞に母校の記事でもあれば気になるものです。ましてそれが良い記事（誉め

た内容）の場合は鼻高々になります。ここ数年、名古屋学院大学に好意的なものが増えたことは非常に喜ばしい事態です。

只今母校は学部も増設され総合大学の様相を見せていますが、今度は大学院でも新設されれば他大学と比較しても遜色のない、いやそれ以上の大学となることは可能でしょう。これだけ大学生の数が増え、しかも他校には無い特色を出せといっても四年間のカリキュラムの消化等を考えれば並大抵ではございません。大学院ができれば先生がたの研究も進み、院生も研究のスタッフとして期待できます。また文部省、他の総合大学の名古屋学院大学に対する評価は高まるはずで

（一九七五年卒）名古屋海外（勤務）

O B 短信コーナー

このコーナーはOBの方の近況をお知らせするコーナーです。ので、ふるってご応募下さい。

恩師の近況



商学部 明田安正先生より

卒業生の皆さんお元気ですか。それぞれの分野で御活躍のことと思います。

早いもので私が本学に赴任して二十三年が過ぎました。明田ゼミのOBも多数を数え、あの時のゼミはどうだったかな？と、懐かしく思いつつ筆を執っています。

現在、三回生十人・四回生十四人のゼミ生と共に会計学の勉学に励んでいます。

今年四月から、経済学部商学科は経済学部から独立し「商学部」となりました。商学部は、「商学・流通」「国際経営」「経営・情報」「経営・会計」の四コース制をとっています。私は、「経営・会計」コース制に所属し、新しい大学のありかたを求めて頑張っています。



一九九二年度入試結果

バブル経済の破綻という社会背景のなかでの九二年度入試は全国的に経済・経営系学部の人気薄が伝えられるなか、本学経済学部では一般入試において前年比一四・四％増、五、二〇九名と初めて五千名の大台を突破し、志願者数を伸ばしました。

また、今年学部改組を果たした商学部では一般入試の志願者五、〇四七名、前年比五九・二％増とこれまた大幅な志願者増となつて、鮮やかな隔年現象を表しました。

このように経済・商両学部とも大幅に志願者数を伸ばした結果、受験生にとってはかなりの難関となりました。

次に完成年度を迎えた外国語学部ですが、九一年度の急激な志願者増により敬遠されたためか英米語・中国語両学科でそれぞれ一八・七％、一〇・八％の志願者減となり、学部開設以来三年間続いた増加傾向に初めてストップがかかりました。

なお、一般試験の競争倍率は経済学部五・五倍、商学部七・〇倍、外国語学部英米語学科四・五倍、中国語学科三・九倍でした。

1993年度入試要項

I. 募集定員

学部	学科	定員
経済学部	経済学科	450名
商学部	商学科	300名
外国語学部	英米語学科	150名
	中国語学科	50名

II. 一般推薦試験

学部	学科	出願期間	試験日	試験地	合格発表日
経済	経済	11月6日(金)	11月28日(土)	本学	12月8日(火)
商	商	11月18日(水)			

III. 一般試験

学部	学科	出願期間	試験日	試験地	合格発表日
経済	経済	1月8日(金)	2月1日(月)	本学、浜松、津、金沢、岡山、福岡、東京、大阪、豊橋	2月16日(火)
商	商		2月2日(火)		
外国語	英米語	1月25日(月)	2月4日(木)	本学、浜松、津、金沢、岡山、福岡、東京、大阪	
	中国語		2月5日(金)		

詳細については入試課へお問い合わせ下さい。TEL 0561-42-0339

同窓会事務局便り

不明者リストご協力のお礼

昨年度の不明者リストについて多大な情報提供を頂き、厚くお礼を申し上げます。皆さまのおかげで約七〇〇名の会員の住所が判明しました。

今後も住所・勤務先等に変更がありましたら事務局までご連絡下さい。

お知らせいで会報が届かない同窓生は見えませんか

会報が届かない同窓生は不明者扱いになっています。至急住所等を事務局までご連絡下さい。

年会費のお願い

大学同窓会は、卒業生の皆さまの会費で運営されています。

敬愛同窓会から分離独立して日が浅く、財政基盤が非常に弱いのが実情です。今回年会費納入をお願いするにあたり、振込用紙を同封させていただきます。

一口以上のご協力をお願いします。

● 年会費 一口20000円

会員名簿発行への準備状況

現在、同窓会員のデータ(約一万七千名)がデータ処理され、名簿発行を急いでおります。

直通電話開設

九月より同窓会事務局にFAX兼用外線電話が開設されました。

従来の代表電話と同様に直通電話もご利用下さい。

代表 ☎011-321-0310(内線200)
直通 ☎011-321-0310(FAX兼用)

同窓会室のご案内

本年六月の役員会にて加藤前事務局長の後任として、中野寛治(68E)が事務局長に就任しましたので、よろしくお願ひします。

事務局としては今後、独自のパソコンを設け、パソコン通信による情報交換にも利用を計画しています。

そして情報の発信・中継基盤として、みなさんのご要望に答えたいと考えています。

場所：第二研究館一階

(正面玄関の右建物)

開室時間 九時三十分～四時三十分

(月/金)

名古屋学院大学同窓会会則

- 第1条 本会は名古屋学院大学同窓会と称する。
- 第2条 本会の事務所は愛知県瀬戸市上島野町1350名古屋学院大学内に置く。
- 第3条 本会は会員相互の親睦をはかり、母校発展充実に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 1. 会員相互の連絡、会員名簿およびその他前条の目的を達成するための必要な事業を行う。
- 第5条 本会の会員は正会員、特別会員の二種とする。
 1. 正会員は名古屋学院大学の卒業生。
 2. 特別会員は役員会の推薦により総会の承認を受けた者。
- 第6条 会員は次の事項によって資格を喪失する。
 1. 退会。
 2. 死亡および失踪宣告を受けた者。
 3. 除名。
 4. 本会の名譽を傷つけ、または本会の目的に反する行為があったとき。
- 第7条 前条の事由その他いかなる理由においても脱退の会費はこれを返還しない。
- 第8条 本会には次の役員を置く。
 1. 会長 1名
 2. 副会長 3名
 3. 幹事 各卒業年次から若干名
 4. 会計 2名
 5. 書記 2名
 6. 監査 2名
- 第9条 本会の会員の選出は次の方法による。
 1. 会長 役員会で選考し総会の承認を求め、

- 2. 副会長 会長が指名し総会の承認を求め、
- 3. 幹事 各卒業年次の会員から、役員会において選ばれた若干名
- 4. 会計 会長選出方法と同じ。
- 5. 書記 会長選出方法と同じ。
- 6. 監査 会長選出方法と同じ。
- 第10条 顧問は学長および本会に功労があった者から役員会の委嘱により若干名置くことができる。
- 第11条 役員は次のとおりである。
 1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を執行する。
 3. 幹事は会長の命により会務を執行する。
 4. 会計は会計事務を行う。
 5. 書記は会の記録等、必要な事務にあたる。
 6. 監査は会計事務について監査する。
 7. 総会が成立しない時は、総会の権限を代行することができる。
- 第12条 役員は任期は2年とする。但し、相次によって就任した役員は任期は、前任者の残任期間とする。
 2. 前項の再任を妨げない。
- 第13条 役員は役員会を組織し、この会則に従って業務を遂行する。
 2. 役員会は、出席議員の過半数で決し、可否同数のときは議長が決するところに従う。
 3. 前項の議決は、委任状の行使を妨げない。

- 第14条 総会は原則として毎年1回開催する。但し、当分の間総会は役員会をもってかえることができる。議長はその都度選出する。
 2. 会長が必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
 3. 総会の議決は過半数をもって決する。可否同数のときは議長の決するところに従う。
 4. 前項の議決は、委任状の行使を妨げない。
 5. 総会において議決および承認する事項は次のとおりとする。
 - イ. 事業計画および収支予算、事業報告および収支決算、その他役員会において必要と認められた事項
- 第15条 本会の事務を処理するための事務局を置くことができる。
 2. 事務局長は役員会で選定し、委嘱する。
 3. 本会は、次の帳簿を置く。
 - 役員名簿、
 - 役員名簿、
 - 記録簿、
 - 会計簿、
 - 役員名簿、
- 第16条 本会の目的を達成するための事業を置くことができる。
- 第17条 この会の収入は次のとおりとする。
 1. 会費
 2. 事業に伴う収入
 3. 資産から生ずる果実
 4. 寄附金その他の収入
- 第18条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
- 第19条 本会則に規定のない事項については役員会の決議によって定める。
- 第20条 この会則の変更は、役員会の議決を得て総会の承認を求め、

編集後記

まだまだ残暑が続く中、今年もまた大学に勤める有志を中心にして会報三号に取組んできた。

今年の夏は、バルセロナオリンピックで「フィーバー」したが、我同窓会には、今まさに過渡期を迎え、生みの苦しみを味わっている。

第四回目を迎える今年のホームカミングデー当日には、敬愛同窓会から

分業・独立して以来初めての総会が予定されている。前進あるのみである。二万人の同窓生のパワーを結果させたいものである。

「敬愛32号」記事、終身会員物故者中の杉野祐敬氏(68E)はお元気で活躍中

謹告 訂正申し上げます。

敬愛同窓会事務局より